２）東仙寺（高槻市西面中２丁）

大本山永平寺・大本山總持寺の両大本山とする曹洞宗の寺院であり、享保３年（1718）に宗頓が開山。 地蔵菩薩を本尊とし、あらゆる願いを叶えると言われ、桜に囲まれた寺、ご祈祷寺として 300 年程の歴史をもつ由緒ある寺です。

３）正徳寺（高槻市西面中２丁目）

正徳寺は、淩雲山と号して浄土真宗本山派（西本願寺）に属し、阿弥陀如来を本尊とする。

創建の年月は不詳であるが、寺伝によれば、もとは真言宗に属して聖徳寺と称していた。明応６年（1497）、了専が蓮如上人に帰依して浄土真宗に転じ、寛文６年（1666）現在の寺名に改めたという。

本堂は、元禄 16 年（1701）に再建され山門は平成元年に修築された。

境内には、本堂や庫裏、鐘楼堂等のほか市指定「保護樹木」のウツギ（卯の花）があり、毎年５月～6 月にかけて、華麗な白い花を咲かせる。

葉はギザギザして全体に毛が生えてザラザラしています。茎を切ると、ストローのように空洞構造になっていることが特徴的です。

４）三箇牧水路の歴史

三箇牧水路を含む淀川右岸中流域は、弥生時代以降、豊かな淀川の水量を背景に水田稲作を中心に農耕文化を育んで来ました。

しかし淀川の氾濫や排水不良に苦しめられ低湿地帯でもありました。そのため、中世期以縄手と呼ばれる小堤防（輪中堤（わじゅうてい）によってそれぞれの区域を囲み、周辺からの排水を一切受け入れない構造とし、区域内の排水を全て下流の川に流していました。

これらの状況を改善するため、安土桃山時代の後期、それまで誰も試みることがなかった、他の区域にまたがる水路開削事業に始めて取り組んだのが三箇牧水路だったのです。